PRESS RELEASE

独立行政法人国際協力機構
2026 年 11 月 13 日

モーリタニア漁業発展の立役者を讃えた調査船「MASAAKI NAKAMURA」の命名・進水

タコ壺漁の普及に尽力した、中村正明氏（77）の功績を称え船名に採用

独立行政法人国際協力機構（JICA）は、10 月 29 日（木）に、常石三保造船株式会社新潟工場において、JICA の無償資金協力により建造中のモーリタニア向け漁業調査船「MASAAKI NAKAMURA」の命名・進水式が実施されたことをお知らせいたします。本船は、長年にわたりモーリタニアの水産業発展に尽力し、とりわけ日本式タコ壺漁の導入・普及を通じて同国漁業の振興に大きく貢献した JICA 元専門家・中村正明氏の功績を讃え、モーリタニア政府により命名されたものです。



支綱切断を行う中村正明 JICA 元専門家夫妻

PRESS RELEASE

独立行政法人国際協力機構
2026 年 11 月 13 日



左から JICA 中村理事長特別補佐、モーリタニア・イスラム共和国大使館アーメドゥ・モハメド・ラディ大使、中村正明氏、常石三保造船株式会社檀上明人代表取締役社長

■中村正明氏の功績と「MASAAKI NAKAMURA」に込められた思い

中村氏は 1978 年から 1985 年にかけて JICA 専門家としてモーリタニアへ派遣され、当時まだ発展途上にあった同国の沿岸漁業の振興に尽力しました。特に、現地の状況に適したタコ壺漁の導入・普及は、その後のモーリタニア水産業発展の大きな転機となりました。タコ壺漁は現在も同国を代表する漁法として定着しており、約 4 万人の雇用と数億ドル規模の収入を生み出しています。また、タコはモーリタニアを代表する輸出産品の一つとなっており、日本が輸入するタコの約 4 割に相当する約 12,000 トンがモーリタニアから供給されています。タコ壺漁による水産業の発展は、モーリタニア経済への貢献だけでなく、日本との経済的な結びつきの強化にもつながっています。

モーリタニアでは中村氏の功績が広く知られており、同氏への敬意から子どもに「マサアキ」と名付けた人もいるとされています。今回、モーリタニア政府が新たな漁業調査船を「MASAAKI NAKAMURA」と命名した背景には、こうした長年にわたる感謝と敬意があります。本船は今後、モーリタニアにおける漁業資源調査等に活用される予定であり、同国の水産業の発展や水産資源の適切な管理に貢献するとともに、日本とモーリタニアのさらなる協力関係の発展にも寄与することが期待されています。

PRESS RELEASE

独立行政法人国際協力機構
2026 年 11 月 13 日

■命名・進水式では中村正明氏や駐日モーリタニア大使らが祝辞

命名・進水式には、中村正明氏をはじめ、アーメドゥ・モハメド・ラディ駐日モーリタニア大使、建造を担う常石三保造船株式会社の檀上明人代表取締役社長のほか、JICA 中村理事長特別補佐らが出席しました。

ラディ大使はスピーチの中で、「中村氏のご尽力により、タコ壺漁は数十年にわたりモーリタニアの主要産業となり、沿岸地域の人々の主要収入源となっています。今回の命名は中村正明氏がモーリタニアの水産業の発展に果たした貢献を公式に讃え、記憶に留めるとともに、モーリタニアと日本の友好の証となるものです。」と、本船への期待を述べました。

中村正明氏は、「私の名前で本当に良いのかと少し恥ずかしさもありますが、非常に名誉なことと感じています。今や日本中のスーパーマーケットでモーリタニア産のタコが売られていますが、これはモーリタニアの漁民のおかげだと深く感謝しています。本船もモーリタニアに着いたらすぐに活躍してくれることと思います。」と語りました。

■日・モーリタニア協力の新たな節目

中村氏の活動を契機として、JICA は長年にわたりモーリタニアの水産分野に対する技術協力、機材供与、施設整備などを実施してきました。今回進水した調査船は、既存調査船の老朽化に伴い十分な調査が困難となっている状況を踏まえ建造されたもので、水産資源及び海洋環境の調査機能を備えています。今後、モーリタニアにおける漁業資源調査等に活用される予定です。

本調査船の進水は、一人の日本人専門家から始まった半世紀にわたる両国の協力の歩みを次世代へとつなぐ節目となりました。「MASAAKI NAKAMURA」が今後モーリタニアで活躍することは、中村氏の功績と日本・モーリタニア両国の長年にわたる友好と協力を未来へつないでいくことにもつながります。

PRESS RELEASE

独立行政法人国際協力機構
2026 年 11 月 13 日

＜参考情報＞

【中村正明氏略歴】

西暦	出来事
1948	広島県三次市上川立町（旧双三郡川地村）に生まれる
1971	青年海外協力隊漁業隊員としてケニアに派遣
1974	青年海外協力隊シニア隊員第 1 期生としてケニアに再派遣
1978	JICA 専門家としてモーリタニアに派遣
1983	タコ壺漁の導入・普及を開始
1985	7 年間のモーリタニア滞在を終え帰国
1986	青年海外協力隊調整員としてソロモン諸島国に派遣
1989	日本鰹鮪漁業協同組合連合会に就職
2010	モーリタニア大統領から国家功労賞（騎士勲章）を授与
2026	外務大臣表彰を受賞 ※注

■調査船概要

案件名：漁業調査船建造計画

贈与契約締結：2024 年 11 月

概要：モーリタニアでは水産業は重要な産業ですが、近年海洋環境の変化や乱獲等により、水産資源の持続的な利用が懸念されています。本事業でモーリタニア海洋水産研究所の漁業調査船を建造することにより、同研究所の水産資源や海洋環境に関する調査能力向上を図り、もってモーリタニアや周辺国の持続的な水産資源管理と海洋環境保全に貢献します。

詳しくは漁業調査船建造計画 | ODA 見える化サイトをご覧ください。

※注：外務大臣表彰について

外務大臣表彰は、多くの方々が国際関係の様々な分野で活躍し、我が国と諸外国との友好親善関係の増進に多大な貢献をしている中で、特に顕著な功績のあった個人および団体について、その功績を称えるとともに、その活動に対する一層の理解と支持を国民各層にお願いすることを目的としています。

今年度の受賞者情報は以下のニュースページをご参照ください。

リンク→（令和８年度外務大臣表彰 | 外務省）

PRESS RELEASE

独立行政法人国際協力機構
2026 年 11 月 13 日

■独立行政法人国際協力機構（JICA）について
JICA は、開発途上国が直面する課題を解決するため、技術協力、有償資金協力、無償資金協力など日本の政府開発援助（ODA）の中核を担う二国間援助の実施機関で、150 以上の国と地域で事業を展開しています。
国際社会の課題は日本とも密接に関係しています。国内外のパートナーと協力してそれらの解決に取り組み、世界の平和と繁栄、日本社会の更なる発展に貢献します。
詳しくは https://www.jica.go.jp/index.html をご覧ください。